

えんぼとたんぼの始発駅

里山ビオトープ二俣瀬

会 報 第 136 号

2012年11月25日

里山ビオトープ二俣瀬をつくる会

編集責任者：西原 一誠

1. 活動報告（事務局 記）

—11月4日（日）① エコアップ 湿地帯のスゲ草の間引き、タテバチドメクサ駆除

② 維持管理 水路U字溝17個（約10m）設置

16名の参加でした。

—11月24日（土）親子自然観察隊は「里山の暮らし」

観察隊員6名、ジュニア4名、親隊員7名と会員スタッフ15名にて

①□手こぎ千歯と足踏千歯にて脱穀・ダイガラ臼での臼挽き・フルイと唐箕（トウミイ）での選別

②□手まわし石臼による小麦粉作り・フルイで精製後お好み焼き作り

③□稲藁で縄を綯う（なう）体験 一部はしめ縄作りに挑戦

④□御所キネリ柿の収穫と試食

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

— 9月20日（木）読売新聞社 古田宇部市局長が来訪

特集記事「二俣瀬」のうち “ビオトープ” 紹介記事を収集。今井会長と原田事務局にて対応しました。10月26日掲載されました。

◎行 事

—12月02日（日）維持活動（エコアップを主体でおこないます）

—12月07日（金）親子自然観察隊の餅つき準備 9時よりテント貼り・揉み台
機器の確認と午後はもち米洗い

—12月08日（土）親子自然観察隊：餅つき 8時から参加可能な会員により前準備
9時からが本番となります。

—12月22日（土）収穫祭（ハス掘り）・忘年会、今年も田んぼを荒らした猪のお肉が沢
山 焼き肉用に待っています。

3. 来訪者の声

—2012.10.13（土）

1年ぶりに子供を連れてきました。ドングリ拾いで1時間程おじゃまするつもりでしたが、良く整備され3時間弱おじゃまさせて頂きました。また来ます。 すーくん

—H24.10月25日 y.y.b.n 四人組

今日は、絵の仲間とスケッチに来ました。自然がとってもすばらしくて、子供の頃田舎に育ったので、思い出されてとってもいやされました。次回は、お弁当でも持参してもう一度来て見たいです。

4. 会員の声 新酒 古酒 温酒 (内藤武顕)

「新酒」は、今年取れたお米で造った酒。昔は農家などで自家用として、新米の収穫後、すぐに醸造したので、新酒は秋のものであった。現在は寒造りが殆どで新酒が出回るのは2月頃なので、秋の感はうすれつつある。しかし、材料は新米である。まだ秋の気配が充分残っている。俳句では新酒は秋に収められる。新酒が出れば前年の酒は「古酒」となる。「温の酒」は、かつて陰暦の9月9日の※重陽の節句の際に、酒を温めて飲むと病気にかからないと云われていた。丁度 この頃は寒さに向かう時期であり、健康面からも理にかなっていたと思われる。

最近「ぬくめ酒」と詠ませるようになっていたが正確には「あたため酒」であろう。

さて一句

— 旨ければ 古酒も新酒も なかりけり —

間もなく忘年会のシーズン。苦い酒もあればうれしい酒もある。いずれにしても酒の味は、10人10色である。さて川柳

— 忘年会 忘れたきこと 思い出す —

極めつけ

— 彼奴(あいつ) 駄目 此奴(こいつも) 駄目と 自分ほめ —

2次会、3次会は、もう遠い昔の物語になった。

※重陽 中国から伝わり、平安時代には宮中の年中行事となって観菊の宴が催されていた。

5. 親子自然観察隊 「里山の暮らし」 リーダ 藤村会員

親子自然観察隊は、最終観察段階となりましたが子ども隊員は、他の秋の行事と重なり子供観察隊員6名と少かったものの、ジュニア隊員4名、親隊員7名と会員スタッフ15名合計32名にて古くから二俣瀬地域で行ってきた、収穫の最終段階の一部を前日からそれぞれの道具(農具)段取りを会員にいただき、過っては、こんなきつい作業をしなければ食に有りつけなかった苦労を思い切り体験していただきました。

① 手こぎ千歯と足踏回転千歯の脱穀は、こぐ稲束が少なく隊員に一握りの束で体験していただきました。

ダイガラ臼での臼挽きは隊員交代でダイガラを踏み収穫祭餅つきの予行演習となりました。

② 手まわし石臼による小麦粉作りは何回も入れ直して徐々に粉末にし、フルイ上は何回も石臼にかけて粉挽きを行い、出来たてのめりけん粉はお好み焼き作って皆でおいしく食べました。

③ 稲わらで縄を綯う(なう)体験では子供隊員は、なかなか難しかったものの時間を追うごとに上手になり、しめ縄づくりにも挑戦してみました。

④ 御所キネリ柿は水車横に自然に生えた柿の木が大きくなり昨年より実がつくようになり、今年は沢山実ったため収穫をみんなで行き、試食もしましたが大変甘くおいしく思いました。



ダイガラで粃摺り



トウミイで選別

10月20日の観察隊（稲刈り）の感想

★大井千晴さん

稲刈り、最高の天気でいい仕事が出来ました。初めてではありませんが、年々子供達の働きぶりには親として成長を感じるとともに、先々でこの体感したものを何かの役に立てて、力強く人生を歩んで欲しいなど、大袈裟に思っています、母として...
また、ビオトープで頂かしし鍋.おむすびは、星3つでしたよね☆☆
ありがとうございました(´-`)

★村田ひとみさん

先日の稲刈りではお世話になりました！
お天気もよくなってちょうどいい秋空で気持ちよかったです。
去年も経験している子どもが多かったようでスムーズにできたように思います。みんな一生懸命に作業されていましたね。
スタッフの方も一人一人保護者にもご指導ただけてまた一ついい経験ができました。
猪汁とおにぎりもすごくおいしかったです。
いろいろご準備等大変でしょうが、普段ではできないことがここでは親子のできるの为本当に感謝しています。ありがとうございました。

6. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) (管 哲郎 記)

(54) ナツアカネ [トンボ科・アカネ属 (アカトンボ属)] *Sympetrum darwinianum*

日本全国に見られますが、北海道や種子島、奄美大島では稀なトンボのようです。アキアカネと並び、日本を代表するアカトンボです。未熟な時や未成熟な時代では黄色が強く、まさかアカトンボとは思えず別なトンボかと間違えたりします。アキアカネよりはやや小型ですが、成熟するとオスは複眼を含め胸、腹にかけて真っ赤に変身します。まさにアカトンボとなります。アキアカネの胸は茶褐色で赤くなりませんので、区別がつかます。

植生豊かなため池や水田のアゼ、湿地、湿原、溝などに棲息し、梅雨ごろより羽化が始まります。羽化を終えたトンボは、いったん林や森の中に隠れ、山中で餌を食べ秋になると水辺や溪流沿いに降りてきて生活します。ビオトープでは作業道沿いに多く見られます。



ナツアカネ ♂



ナツアカネ ♀



ナツアカネ ♂



交尾連結 右上赤トンボ (♂)、左下 (♀)

7. 会よりの連絡事項 (事務局より)

会員多数のご意見で収穫祭 Part-2 として12月22日(土) 10時からハス堀を久しぶりに行い合わせて忘年会を行う事になりました。

ハス堀の最大の目的はビオトープ創設以来11年経過し、土壌の劣化による蓮の花も咲かず蓮根も小さくなったからで、化学肥料をやれば回復するのですが、ビオトープの構造上(ハス田の位置づけ)でそれも出来ず、今年は種を採取った後はハス田を掘り起こしミネラル分を含む有機肥料(落ち葉。厩肥・鉄分)をミキシングする計画です。

8. 編集後記

ビオトープの親子自然観察隊も今年度の活動が12月で一区切りですね。今年度は我が子やその友達も、幼すぎる為にまるまる一緒に活動することが難しいですが、その雰囲気をも十分に味わわせて頂きました。大変ありがとうございました。周南市福川で主人たちと行っている福川子どもクラブの活動も、12月で今年度終了です。今年度の最大の思い出としては、9月に周南市内の川で行いました「河原探険」です。秋吉台エコミュージアム職員の田原さんと、二俣瀬ビオトープ会員の西原さんに来て頂き、水生昆虫やカエルなどをたくさん見つけ、生態系について教えて頂きました。

朝一では、イナゴとトビケラの佃煮を「今日見つける生き物が草食か肉食か、考えながら活動しよう。」と「朝のおやつ」として頂きました。子どもたちは見た目躊躇しながらも、佃煮を口に入れると「おいしい〜！」と驚いていました。石の裏などにいる水生昆虫の見つけ方を教えて頂き、西原さんからは「カジカガエル」の鳴き声を聴くことができる機器であらかじめ鳴き声を聴かせてもらったりして、たくさんの生き物を見つけました(現地にはそのカジカガエルもいましたよ♪)。

活動終了時の子供たちのふり返し用紙には、見つけた生き物や、お聞きした生態系のお話などについて、とても生き生きとした内容がたくさん書かれてありました。生き物を実際に食べてみたり、聴いてみたり、触ってみたりして、またいろいろな大人の人に出会ってお話を聞くことなど、今となってはなかなか難しい贅沢なことのように思えますが、二俣瀬ビオトープの親子自然観察隊も含め、そんな経験ができる場所があることは子どもたちにとってとても幸せな事ですね(でも続けるのはとても大変ですね…。たくさんの方々に感謝です)。

(大野 靖子 記)